

ケアマネジメント向上会議の 実施結果について

ケアマネジメント向上会議（公開ケア会議）について

目 的

- ・ ケアプランの実態と課題について、具体的なケアプランと介護支援専門員（ケアマネジャー）の思考過程の事例に基づき、多職種の協働による公開の議論の場において、事例評価・検証を実施する。
- ・ 事例評価・検証を踏まえて、ケアマネジメント向上のための改善方策を検討する。

2つの会議体を設置

ケアマネジメント向上会議

公開ケア会議の結果等を踏まえ、提案された改善方策について、見直すべき点と見直しの方向性を整理する

公開ケア会議

多職種の協働による公開の議論の場において、事例評価・検証を実施し、ケアマネジメント向上のための改善方策を提案する。

第1回開催概要

※会議は事業の受託業者である（株）日本総合研究所が開催

日 時：平成24年11月28日（水）18:45～21:15

※「ケアマネジメント向上会議」と「公開ケア会議」を同日開催

出席委員：16名（多職種の専門職、実務者を中心に構成）

内 容：①事業の趣旨・概要の説明

②公開ケア会議・・・2つの事例について評価・検証を実施

③ケアマネジメント向上会議・・・ケアマネジメントに係る改善すべき課題等について議論

第1回公開ケア会議について

事例の概要と評価・検証の結果

【事例1】

○要介護1、男性、独居

○低栄養があったものの訪問介護の利用で改善傾向にあり、今後は認知症の進行を抑えつつIADLの改善が課題

- ・ 引き続き食事のコントロールにより、IADLの改善が見込まれる。
- ・ 認知症による判断能力の低下があり、今後は金銭管理への支援が課題。
- ・ 故郷に戻ることを諦めた経緯があり、精神的な自立を阻害する状況への対応が必要。
- ・ 専門医の診断を受けていないので、早期の受診が必要。
- ・ 地域としては、要介護度1程度の認知症において、自助をどう考えるかが課題。独居でもあり、インフォーマルな支援が欠落すると、施設に頼らざるを得ない。
- ・ まず食事と栄養の課題、次いで認知症への対応、さらに人間関係の構築といったように、課題の優先順位づけが必要。

【事例2】

○要介護4、女性、夫と二人世帯

○認知症状による徘徊があったもののショートステイの利用を経て安定しつつあり、今後は症状の進行を抑えつつ日常生活の中で出来ることを増やすことが課題

- ・ 全体的にアセスメントが不十分であり課題の捉え方も曖昧。
- ・ 自立を阻んでいる原因はアルツハイマー型認知症と考えられるので、水分、食事、運動、排せつのケアを適切に行えば進行を抑えられるのではないかと。
- ・ 食事は自立だが食事量が減っていることが伺えるので、食事の形態を変えることも必要。
- ・ 介護支援専門員にとって判断が難しい場合、専門職に判断を仰ぐためにも、課題抽出シートには判断した根拠を適切に記載することが必要。

3

第1回ケアマネジメント向上会議について

ケアマネジメント向上会議では、公開ケア会議における事例の評価・検証を踏まえて議論したところ、以下のような意見があった。

ケアマネジメント向上会議での主な意見

○介護支援専門員に対する相談・支援の仕組みについて

- ・ 介護支援専門員が相談できる多職種のアドバイザーが必要。
- ・ 地域に不足している職種は、地域外から呼べるような仕組み(チーム)を作ることが重要。
- ・ 介護支援専門員が全てを判断するというのではなく、介護支援専門員による根拠情報の収集と判断をチームで支援することも、地域ケア会議の目的の一つ。

○地域の課題を把握する取組について

- ・ 個々のケアマネジメントから地域の課題を抽出する方法論を確立することが重要。
- ・ 介護保険事業計画の中に個別のケアプランがある。地域包括支援センターや保険者である市町村が地域ケア会議の事務局を担い、地域に不足している資源が見えてくれば、それにどう取り組むか決定するだけである。
- ・ 地域ケア会議だけで地域課題を把握するのではなく、ニーズ調査など他の手段も使うことが重要。
- ・ 例えば、認知症のケアについて考える時に「徘徊を予防する街を目指すのか、徘徊しても安心な街を目指すのか」といった地域の目指す姿を議論することも必要。

○ケアプラン等の書式について

- ・ 課題抽出シートのように、課題を抽出したプロセスについて、多職種が同じ目線で共有できるのは重要。

○研修、OJTについて

- ・ 新任であっても、ある程度アセスメントが出来ている介護支援専門員もいるが、ケアプランへの活かし方が出来ていない。そういうところをOJTで取り組んで行くことが重要。
- ・ 現場の複数の専門職が課題抽出に関与する仕組みを作るとともに、課題抽出に関する研修を充実することが重要。

4